



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 M-ライフネット生命

コード番号 7157 URL <https://www.lifenet-seimei.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森亮介

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 近藤良祐 TEL 03-5216-7900

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年3月期第3四半期の業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	経常収益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	12,242	30.8	△1,699	-	△1,711	-
2019年3月期第3四半期	9,359	16.0	△944	-	△957	-

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△33.43	-
2019年3月期第3四半期	△18.72	-

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	40,607	10,371	25.5	201.95
2019年3月期	38,247	11,773	30.8	230.19

（参考）自己資本 2020年3月期第3四半期 10,371百万円 2019年3月期 11,773百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年3月期	-	0.00	-		
2020年3月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	経常収益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	16,500	31.4	△2,500	-	△2,500	-

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

詳細は、添付資料2ページ「1(3)業績予想」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	51,360,238株	2019年3月期	51,145,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	一株	2019年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	51,199,373株	2019年3月期3Q	51,145,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社は、2020年2月12日（水曜日）午後4時30分から、機関投資家、アナリスト向けに、第3四半期決算の電話会議を開催する予定です。電話会議における説明内容は、終了後、当社株主・投資家情報ウェブサイト（<https://ir.lifenet-seimei.co.jp/ja/>）に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績	1
(2) 財政状態	1
(3) 業績予想	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	5
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績

契約の状況

当第3四半期会計期間の新契約の年換算保険料*1は、前年同期比110.4%の818百万円、新契約件数は、前年同期比113.7%の19,685件となりました。また、当第3四半期累計期間の新契約の年換算保険料*1は、前年同期比124.8%の2,435百万円、新契約件数は、前年同期比127.0%の57,597件となりました。

当第3四半期会計期間末の保有契約の年換算保険料*1は、前事業年度末比113.0%の14,783百万円、保有契約件数は、前事業年度末比112.8%の348,429件となりました。なお、保有契約件数は、2020年1月に35万件を突破しました。また、当第3四半期累計期間の解約失効率*2は、7.0%（前年同期6.3%）となりました。

*1. 年換算保険料とは、1回当たりの保険料について保険料の支払い方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額をいいます。当社商品の保険料は全て月払いのみとなっているため、1ヶ月当たりの保険料に12を乗じたものを年換算保険料としています。

*2. 解約失効率は、解約・失効の件数を月々の保有契約件数の平均で除した比率を年換算した数値です。

収支の状況

当第3四半期累計期間の保険料等収入は、保有契約の増加及び修正共同保険式再保険の実施に伴い、前年同期比133.5%の11,945百万円と増加しました。また、資産運用収益は、前年同期比88.3%の258百万円となりました。その他経常収益は、39百万円となりました。この結果、当第3四半期累計期間の経常収益は、前年同期比130.8%の12,242百万円となりました。

保険金等支払金は、前年同期比140.6%の2,743百万円となりました。保険金及び給付金支払額の保険料に対する割合は、前年同期の18.4%から19.7%に増加しました。責任準備金等繰入額は、前年同期比121.7%の3,604百万円となりました。責任準備金繰入額の保険料に対する割合は、前年同期の34.0%から35.0%となりました。事業費は、広告宣伝費を中心とした営業費用を積極的に投下したことなどにより、前年同期比139.6%の6,772百万円となりました。事業費のうち、営業費用は前年同期比160.1%の4,563百万円、保険事務費用は前年同期比115.4%の667百万円、システムその他費用は前年同期比108.5%の1,542百万円となりました。その他経常費用は、前年同期比143.3%の773百万円となりました。これらにより、当第3四半期累計期間の経常費用は前年同期比135.3%の13,941百万円となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経常利益は、前年同期のマイナス944百万円に対して、マイナス1,699百万円となりました。四半期純利益は、前年同期のマイナス957百万円に対して、マイナス1,711百万円となりました。

また、生命保険会社の収益性を示す指標のひとつである基礎利益は、事業費が増加したことなどにより、前年同期の936百万円のマイナスに対して、1,675百万円のマイナスとなりました。内訳は、危険差益2,077百万円、費差損3,771百万円、利差益17百万円となりました。

当社は、継続的な新契約業績の成長を目指すとともに、財務健全性の維持を目的として、2019年度から新契約の一部（以下、出再契約）を対象とした修正共同保険式再保険を行っています。修正共同保険式再保険は、出再契約のリスク及び収支構造の一部を一定期間再保険会社に移転するもので、当該再保険を活用することで、新契約に係る費用の負担が、会計上の資本を急激に減少させる状況を緩和することが可能となります。具体的には、当該再保険では、新契約獲得の初年度に、出再契約に係る新契約費の一部を出再手数料として収受します。そのため、経常収益が増加します。一方、収受した出再手数料は、再保険貸に資産計上された後、一定の期間において再保険収支に基づいて段階的に償却されます。そのため、当該期間において、経常利益及び純利益は減少することとなります。再保険貸の償却が完了し、再保険契約を終了させると、その後の出再契約の利益は当社に帰属することとなります。以上により、当第3四半期累計期間においては、当該再保険により経常収益は1,367百万円、経常利益は1,096百万円、四半期純利益は1,096百万円増加しています。

(2) 財政状態

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の総資産は、40,607百万円（前事業年度末38,247百万円）となりました。主な勘定残高として、高格付けの公社債を中心とする有価証券は、31,771百万円となりました。また、再保険貸1,204百万円のうち、修正共同保険式再保険に係る未償却出再手数料の残高は1,100百万円となりました。

負債は、責任準備金が増加したことから、30,235百万円（前事業年度末26,474百万円）となりました。主な勘定残高は、責任準備金28,376百万円、支払備金484百万円となりました。

純資産は、四半期純損失を計上したため、10,371百万円（前事業年度末11,773百万円）となりました。これには、修正共同保険式再保険の活用により、利益剰余金を1,096百万円増加させた効果を含んでおり、資本の急激な減少を緩和しています。

当第3四半期会計期間末のソルベンシー・マージン比率は、2,163.6%（前事業年度末2,085.2%）となり、充分な支払余力を維持しております。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、事業費が増加したものの、1,018百万円の収入（前年同期1,923百万円の収入）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有価証券の取得により、1,475百万円の支出（前年同期2,675百万円の支出）となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、76百万円の収入（前年同期13百万円の支出）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期会計期間末残高は、1,812百万円（前事業年度末2,192百万円）となりました。

(3) 業績予想

2019年度（2020年3月期）の業績予想は、以下のとおり、2019年11月12日に発表した内容から変更ありません。
(百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
2019年度業績予想 (2020年3月期)	16,500	△2,500	△2,500
(参考) 2018年度実績 (2019年3月期)	12,560	△1,719	△1,735

なお、2019年度業績予想の各数値には、2019年度に導入した修正共同保険式再保険による影響額が含まれていません。当該再保険による2019年度の業績予想への影響として、経常収益が約2,000百万円、経常利益が約1,400百万円、当期純利益が約1,400百万円増加する見込みです。また、新契約年換算保険料*1は、3,300百万円を見込んでいます。

*1. 年換算保険料とは、1回当たりの保険料について保険料の支払い方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額をいいます。当社商品の保険料は全て月払いのみとなっているため、1ヶ月当たりの保険料に12を乗じたものを年換算保険料としています。

引き続き、当社は、毎四半期における決算発表、業績速報等の実績値の開示の充実など、IRマニフェストに掲げている積極的な情報開示を推進することで、ステークホルダーの皆さまの当社に対する理解の促進に努めます。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
現金及び預貯金	1,192	1,312
買入金銭債権	999	499
金銭の信託	3,114	3,698
有価証券	30,989	31,771
国債	8,071	8,083
地方債	1,394	1,398
社債	16,763	18,037
株式	363	372
外国証券	45	29
その他の証券	4,352	3,849
有形固定資産	99	98
無形固定資産	629	716
代理店貸	7	9
再保険貸	69	1,204
その他資産	1,146	1,297
未収金	955	1,083
その他の資産	191	213
資産の部合計	38,247	40,607
負債の部		
保険契約準備金	25,256	28,861
支払備金	469	484
責任準備金	24,786	28,376
代理店借	72	55
再保険借	160	206
その他負債	707	754
特別法上の準備金	42	52
価格変動準備金	42	52
繰延税金負債	233	305
負債の部合計	26,474	30,235
純資産の部		
資本金	12,136	12,200
資本剰余金	12,136	12,200
利益剰余金	△13,101	△14,813
株主資本合計	11,172	9,587
その他有価証券評価差額金	600	784
評価・換算差額等合計	600	784
純資産の部合計	11,773	10,371
負債及び純資産の部合計	38,247	40,607

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
経常収益	9,359	12,242
保険料等収入	8,949	11,945
保険料	8,706	10,269
再保険収入	243	1,675
資産運用収益	292	258
利息及び配当金等収入	167	218
金銭の信託運用益	26	22
有価証券売却益	98	16
その他経常収益	117	39
支払備金戻入額	93	—
その他の経常収益	23	39
経常費用	10,303	13,941
保険金等支払金	1,950	2,743
保険金	1,105	1,316
給付金	498	704
その他戻入金	0	0
再保険料	347	721
責任準備金等繰入額	2,962	3,604
支払備金繰入額	—	14
責任準備金繰入額	2,962	3,590
資産運用費用	0	46
支払利息	0	0
有価証券評価損	—	46
為替差損	—	0
事業費	4,850	6,772
その他経常費用	540	773
経常損失(△)	△944	△1,699
特別損失	9	9
特別法上の準備金繰入額	9	9
価格変動準備金繰入額	9	9
税引前四半期純損失(△)	△954	△1,708
法人税及び住民税	3	2
法人税等合計	3	2
四半期純損失(△)	△957	△1,711

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△954	△1,708
減価償却費	187	227
支払備金の増減額 (△は減少)	△93	14
責任準備金の増減額 (△は減少)	2,962	3,590
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	9	9
利息及び配当金等収入	△167	△218
有価証券関係損益 (△は益)	△98	29
支払利息	0	0
代理店貸の増減額 (△は増加)	△2	△2
再保険貸の増減額 (△は増加)	△33	△1,134
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)	△104	△118
代理店借の増減額 (△は減少)	14	△17
再保険借の増減額 (△は減少)	29	45
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)	63	46
その他	△26	△0
小計	1,787	762
利息及び配当金等の受取額	179	251
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△43	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,923	1,018
投資活動によるキャッシュ・フロー		
金銭の信託の増加による支出	△400	△450
有価証券の取得による支出	△3,788	△3,130
有価証券の売却・償還による収入	1,727	2,412
資産運用活動計	△2,460	△1,167
営業活動及び資産運用活動計	△537	△148
有形固定資産の取得による支出	△25	△34
無形固定資産の取得による支出	△189	△273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,675	△1,475
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	85
リース債務の返済による支出	△13	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13	76
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△765	△380
現金及び現金同等物の期首残高	2,926	2,192
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,160	1,812

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。